

## シンポジウムS3-6 第2種装置を有する施設への加圧下搬送

藤田 智 稲垣泰好 川田大輔 丹保亜希人  
鈴木昭広 小北直宏

旭川医科大学病院 救命救急センター

広大な北海道 (83,456km<sup>2</sup>, 日本の総面積の23%) では3台の第2種装置が稼働しているが, その装置を所有している施設 (札幌, 美唄, 旭川) は道央圏に偏っている。

北海道のオホーツク海側に位置する斜里町は, 職業ダイバーを用いた漁業が盛んなところで, 従来, 地域の病院に第1種装置が設置されていた。しかしながら, 医師不足等のために現在は稼働しておらず, 減圧症が発症した場合には, 救急再圧員が救急車に同乗して, 第2種装置がある当院まで, 傷病者を搬送している。

当院は, 北海道のほぼ真ん中に位置しており, 斜里町からは, 246km, 搬送には約5時間必要とする。さらに, 途中標高890mの峠を通らなければならないなど, 大きな制約がある。そのため本年1月, 傷病者を安全に搬送し, 可能な限り早急に治療を行うという目的で, 斜里町および, 斜里漁協を中心として, 患者搬送訓練を行った。また, 合わせて連絡体制を検討した。途中海拔800m以上の峠を通ることから, 海拔約300m地点で斜里漁協に所属する救急再圧員によって加圧チェンバーを用いる訓練も行った。

訓練自体は大きな問題なく終了したものの, そこで抽出された問題点としては, 地域医療機関との連携, 消防との連携, 緊急時の搬送手段等が上げられた。

現在北海道では, ドクターヘリ, 防災ヘリ, 固定翼機が傷病者の搬送に使用されている。

それぞれの特徴をTable1に示す。特に固定翼機は, 本年8月まで, 研究運行として行われてきた。昨年6月から, 本年1月までに要請は82件, 出動回数は53件と, 運航率も65%であった。Table1に示すごとくドクターヘリ等と比べると現時点では機動性は弱いものの, そのスピードは速く, 特に減圧症患者に対しては, 与圧ができるというメリットがあることから, 今後の活用の仕方を現在協議中である。

今後, 連絡網, 搬送手段など, いろいろな方面と調整しながら, より良い体制の構築を模索している段階である。



Fig.1 北海道における2種装置の分布状況及び斜里町から旭川までの道のり

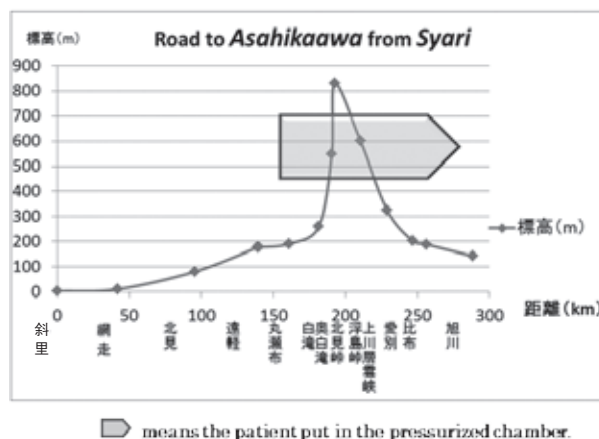


Fig.2 The changes of above sea level between Syari to Asahikawa

Table 1. Comparison of several transport system.

	ドクターヘリ	防災ヘリ	航空機
医師の同乗	○	× (ピックアップ)	○
加圧タンクの積み込み	×	不明	不明
与圧システム	×	×	○
スピード	時速 250km	時速 250km	時速 750km
機動性	○	△	×
その他	ドクヘリは, ロシアとの境界付近を飛ぶことは難しい	出発までに時間がかかる	現在試験運行終了 今後の再開については未定